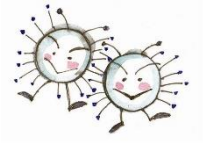

コンポストリーダーズミーティング資料集原稿

「川崎市中部（中原区、高津区）のメンバーを迎えて」

川崎市：環境を考え行動する会

【活動概要】

私たちの子どもや孫の世代に少しでもよい環境を残すため、できることから行動しようと、2007年8月に発足した会です。2008年8月に循生研に出会い、ダンボールコンポストの普及活動に取り組み、実践者は1970人になりました。

今までメンバーは市内北部に偏っていましたが、昨年、今年と市内中部の2名が加わり活動が広がりました。

【生ごみリサイクル相談窓口リニューアル開設】

2011年から2014年の4年間、毎週水曜に行っていた「生ごみリサイクル相談窓口」は行政に移行できず中断していました。

今年新メンバーを迎えたことから、その2人が中心になって、川崎市中央に位置する中原区役所の区民活動センター「なかはらっぱ」に、ダンボールコンポストの展示と相談ができる窓口を開設しました。毎月第3月曜日の3時間だけですが、定期的に開くことで、チラシにも明記でき、実践者やこれから取り組む人たちにも紹介することができるようになりました。

生ごみリサイクル相談窓口

【川崎市との連携】

川崎市環境局減量推進課が行っていた年2回の生ごみリサイクル講習会や区役所ロビーでの相談会は、効果があまり見られないということで、今年度は関心のある人達が集まる「公園緑地関連の会」や「減量指導員の会」「3R講演会」などでアピールするという形に方針変更されました。「環境館イベント」でのミニ講座を実施するなど、生ごみリサイクルリーダーはのべ141名（内当会メンバー123名）が派遣されました。方針変更については、これから検証して行きます。

また川崎市と市民団体との実行委員会形式で毎年行われる「生ごみリサイクル交流会」も6回目となり、内容も充実してきました。当会も、毎年実行委員を出して参加協力しています。今年は一部が吉田俊道氏講演、2部が地元の若い農業者3人と野菜にこだわったレストランのシェフによるパネルディスカッションです。

【小学校での取り組み】

昨年から引き続き金程小（4年生全員）、高津小（5年生有志）のダンボールコンポスト取組サポートを行いました。新たに小倉小（5年生全員）からも川崎市を通じて依頼がありました。

小倉小では108人が毎日家庭から生ごみを持参するため、通常なら18箱くらいのところを6箱にして、残りの生ごみは設置型コンポストに入れるという方式にしました。設置型は私たちにとっても新しい試みで、試行錯誤でしたが、いろいろ学べるよい機会となりました。「落ち葉を有効活用したり、学校菜園の作物を1年中、生ごみ堆肥で育てたい！」という先生の強い希望で、循生研の木枠ｺﾝﾎﾟｽﾄも設置し、これらの小学校取り組み費用は昨年から環境局の負担で実施されています。

小倉小学校での設置型コンポスト

小学校取り組みはスタート授業にはじまり、登校時のサポート、まとめの授業と1ヶ月半にわたるハードな活動で、近隣実践者の協力が不可欠です。今回も大勢のサポーターが応援、参加してくれました。

【自治会町会・団体等での講座】

今年も自治会，町会や生活クラブ生協、大地を守る会などの食にかかわる事業者、花壇グループ、まちづくりのグループなどから講座の依頼があり、夏休みには川崎市環境館や麻生区役所での親子講座などが恒例となっています。

【今後に向けて】

新メンバー2名を迎えたものの、ベテラン1名が転居で減り、やはり今後もメンバーの増員が課題です。

2018.1.9　記